

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03364

研究課題名(和文) 東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究

研究課題名(英文) Research on the formation process of photographic culture and visual materials in the Tohoku region

研究代表者

森岡 卓司 (MORIOKA, Takashi)

山形大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：70369289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,500,000円

研究成果の概要(和文)：最大の成果は、石澤靖典・森岡卓司編『大正・昭和期における東北の写真文化』(山形大学人文社会科学部叢書13 2021.3 ISBN9784907085124 非売品)の刊行である。本書は、大正期と昭和期における東北全域の写真文化史をカバーする内容の論集であり、類書に例のない充実した内容を有している。この他にも、合計3回のシンポジウムの主催と報告書の作成、複数回の研究集会の開催、学会参加、一般向けイベントの共催などを通じて、近代東北の写真文化史が持つ重要性を解明し、学界及び一般社会に広くアピールしてきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

記録から芸術的表現、そして報道、リアリズムへと、目まぐるしく揺れ動いた近代日本の写真文化史のなか、東北地方の写真文化がどのように発生、展開していったのか、広範かつ具体的な資料調査によって明らかにした。さらに、そうした東北写真文化史の動きと、文学や社会現象までも含む文化的言説全体との関わりを明らかにした。こうした研究活動を推進するなかで、関連する美術館、博物館等の機関と大学とのあいだに、全東北をカバーするネットワークができたことも、大きな社会的意義を持つ成果である。

研究成果の概要(英文)：In addition, we emphasized the importance of the history of photographic culture in modern Tohoku by hosting symposiums, preparing reports, holding research meetings, attending academic conferences, and co-sponsoring public events.

研究分野：近代日本文学・文化

キーワード：写真文化史 地方表象

## 1. 研究開始当初の背景

国際ドキュメンタリー映画祭をはじめ、映像文化との関わりが深い山形であるが、県内および東北の写真文化の形成史にかんする学術調査は蓄積に乏しく、その実態は従来ほとんど明らかにされてこなかった。

江戸末期に日本に輸入された写真術は、当初は横浜や長崎、函館など欧米との通商の窓口となる港町で受容されたため、これまでの幕末の写真史においては、営業写真の開祖とされる「東の下岡蓮杖（横浜）、西の上野彦馬（長崎）」に主たる注目が集まってきた。一方、明治維新後については、彼らの門下にあたる横山松三郎や内田久一、清水東谷といった東京の写真家の活動が主たる研究対象となる。

それに対し、東北の写真文化に関しては、これら「中央」の文明開化に追隨する「周縁」の動きとして、もっぱら挿話的に扱われるのが一般的であった。

しかし東北における写真文化の普及はそうした首都圏の動きと連動していたばかりでなく、確固とした独自性をも有していることが注目されつつあった。

そのきっかけとなったのは、1983年に山形県立図書館で開催された菊池新学に関する展覧会である。天童出身の菊池新学は、早くも明治元年には山形市内で写真館を開業し、東北初の職業写真師となった。明治9年に山形県令三島通庸から「御用写真家」に指名され、県内に新造された洋風建築物、橋梁、道路、トンネルなどを写真撮影している。その仕事は明治14年の明治天皇東北巡幸のさいに『山形県写真帖』として一冊にまとめられ、近代化する地方の記録として貴重な証言をもたらすこととなった。

こうした新学の仕事を概観した前述の展覧会は、東北の写真文化が「近代の地域表象」として首都圏とは異なる独自性を内包するものであり、個別の調査対象となりうることを認識させるのに十分なものであった。

しかし、研究開始時点において、その調査対象や研究テーマは散発的なものにとどまっており、一つの大きな研究史を形成するに至っていなかった。また学術論文についても、新学や弟子の動向に関する基本データの整理といった性格が強く、基礎研究の段階にとどまっていた。

本研究はこれらの課題に応えるべく、地域表象や視覚文化論など多分野から選出した専門家を研究分担者及び研究協力者に加え、県内全域的なフィールドワークのもと、東北の写真文化に関する学術基盤の構築を目指した。

## 2. 研究の目的

明治初期から昭和戦後期にかけての東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究をおこなうことが、本研究の目的であった。

具体的には、a) 東北における写真文化の系譜を再構成し、b) 絵画などの他の視覚メディアと写真がいかなる共同関係にあったかを検証、c) 最終的に美術史、地域文化史、表象文化論など多様な観点から総合的に近代山形における都市イメージの成立や地域表象の特質を明らかにすることを目指した。そのための学術的基盤として、d) 東北最初の写真家として明治元年に山形市内に写真館を開設した菊池新学（1832-1915）とその弟子たちの系譜をたどり、彼らの残した写真資料を整理し体系化することも、研究スタート期の目的のひとつであった。

## 3. 研究の方法

本研究の目標を達成するためには、山形県内および東北の各地域における写真館および県立図書館、博物館を中心として、既存資料の整理および新出資料の発見に努める必要があった。それら基礎データにもとづき、絵画や文学などを含めた文化史的意義を検討するためである。

こうした、具体的なテーマに即して機能する広域研究組織を作り上げることが、本研究に必要な方法であった。

年次計画としては、対象とする時代範囲を「明治」、「大正・昭和初期」、「戦後」の3期に分け、平成28～30年度の各年度でこれらを個別に検証することにした。平成31年度は、山形の地域表象を相対化するために、東北の各地域との比較検討をおこない、最終年度においてそれまでの研究成果を総合し、学術シンポジウムを開催した上で、論文集を発行することにした。

## 4. 研究成果

石澤靖典・森岡卓司編『大正・昭和期における東北の写真文化』（山形大学人文社会科学部叢書13 2021.3 ISBN9784907085124 非売品）を編集、刊行した。

これは、全研究期間を通じた成果の報告書であり、この間に形成した研究ネットワークによって、東北全県から執筆参加を得て、大正・昭和期における東北全域の写真文化史をカバーすることに成功した。また、東北写真文化史をひろく同時代文化史にひらくための試みとして、収録論文の概要を俯瞰する「緒言」を置くほか、日本近代文学史から写真文化にアプローチした論考2編も収録するなど、これまでの類書に例のない充実した内容になった。

本書については東北各地の図書館、大学等の研究機関をはじめ、博物館、記念館等の全国の関

連研究展示施設、関連分野の研究者に送付するほか、山形大学リポジトリを利用したインターネット上の公開も行い、研究成果の社会的な還元につとめている。このことによって、所期の研究目的のうち a)c) はおおよそ達成できたと考えている。

また、同書の刊行に至るまで、合計 3 回のシンポジウムを開催し、2 冊の研究報告書を刊行している。「近代都市の相貌 明治山形の写真・絵画・建築」(平成 28.10)、「大正・昭和期における東北の写真文化」(平成 30.12) の 2 回のシンポジウムとその報告書を通じて、研究目的のうち b)d) についても成果を挙げられたと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 元木幸一	4. 巻 16
2. 論文標題 ユニークなミゼリコルディア：エッセリヒ、聖マルティニ聖堂の内陣装飾について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要	6. 最初と最後の頁 31 50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐々木千佳	4. 巻 419
2. 論文標題 聖母子画の居場所	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 尾崎彰宏	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 顔のドラマツルギー レンブラントの自画像をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本顔学会誌	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森岡卓司	4. 巻 19
2. 論文標題 未完の地方総合文芸誌としての『月刊郷土』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 インテリジェンス	6. 最初と最後の頁 91-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡卓司	4. 巻 14
2. 論文標題 故郷をめぐる抗争 『日本浪漫派』における亀井勝一郎と山形高等学校『校友会雑誌』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要	6. 最初と最後の頁 pp94(21)～83(32)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林俊介	4. 巻 92
2. 論文標題 二本の木 高橋由一《山形市街図》と菊地新学《県庁前通り》	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 郷土館だより	6. 最初と最後の頁 1～2
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 元木幸一	4. 巻 14
2. 論文標題 マクデブルクの二つの笑顔	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1～22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾崎彰宏	4. 巻 19
2. 論文標題 ヒエロニムス・ボッスの革新とそのリバイバル: 美術市場が創る新しい感性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 西洋美術研究	6. 最初と最後の頁 175-188
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾崎彰宏	4. 巻 1
2. 論文標題 ベラスケスとレンブラント 粗描きにみる絵画論	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ベラスケスとバロック絵画：影響と同時代性、重要と遺産（公開国際シンポジウム報告集）	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 元木幸一	4. 巻 7
2. 論文標題 グリーンマンの森－アインベックの聖アレクサンドリ聖堂内陣席装飾をめぐる－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 小林俊介
2. 発表標題 高橋由一・源吉の絵画と山形の映像文化
3. 学会等名 第58回大学美術教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 基地闘争下の共同制作童話 「ヘイタイのいる村」から「山が泣いてる」へ
3. 学会等名 日文研共同研究会「東アジア冷戦下の日本における社会運動と文化生産」第3回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akihiro Ozaki
2. 発表標題 Rembrandt and Japanese washi paper: Toward an aesthetic of black
3. 学会等名 Images, Philosophy, Communication (University of Bologna) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 地方文学運動としての「民話」研究
3. 学会等名 第80回日本比較文学会全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 占領期山形の文化運動と『月刊郷土』
3. 学会等名 20世紀メディア研究所第123回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akihiro Ozaki
2. 発表標題 'Furusato' as Genius Loci
3. 学会等名 FURUSATO: 'HOME' AT THE NEXUS OF POLITICS, HISTORY, ART, SOCIETY, AND SELF November 15-16 (International Symposium), Ca' Foscari University of Venice (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 山形高等学校『校友会雑誌』の出版と一九三〇年代浪漫主義文学 『日本浪漫派』における亀井勝一郎
3. 学会等名 国立台湾師範大学・台北高等学校同学会「台北高等学校創校95週年：学養與自治精神的伝承」国際学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 詩人長崎浩の山形と台湾
3. 学会等名 東亜細亜日本学会・東北亜細亜文化学会・日本文芸研究会 2017年秋季聯合国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akihiro Ozaki
2. 発表標題 After 3.11: Toward a Rehabilitation of the Mind
3. 学会等名 Internationa Symposium “3.11: Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination”（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akihiro Ozaki
2. 発表標題 Porcelain's White Gleam: Iconoclasm and Encounter between the Netherlands and Asia
3. 学会等名 International Workshop: Emotion and Feeling in Philosophy（国際学会）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 元木幸一
2. 発表標題 笑顔なのか？ードイツ、マクデブルク大聖堂の彫刻についてー
3. 学会等名 新約聖書画像研究会例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akihiro Ozaki
2. 発表標題 The Beginning of the Never-ending Struggle
3. 学会等名 Tohoku Forum for Creativity (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林俊介
2. 発表標題 高橋源吉の研究
3. 学会等名 第23回鹿島美術財団賞授賞式 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林俊介
2. 発表標題 "可視化"された近代山形 高橋由一・源吉の絵画/菊地新学・清、照井正太郎の写真
3. 学会等名 シンポジウム近代都市の相貌 明治山形の写真・絵画・建築 (山形大学人文学部附属映像文化研究所)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森岡卓司
2. 発表標題 1960年前後の 東北 表象と石坂洋次郎編『津軽』
3. 学会等名 日本比較文学会2020年度東北大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林俊介
2. 発表標題 二つの宮城県庁図 高橋由一《宮城県庁門前図》と「繪入仙臺市内圖」
3. 学会等名 第59回 大学美術教育学
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 Akihiro Ozaki, C. Craig, E. Fongaro, A. Tollini, and others	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mimesis International, Milan	5. 総ページ数 242 (45 58)
3. 書名 Furusato: 'Home' at the Nexus of History, Art, Society, and Self	

1. 著者名 山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所（石澤靖典）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所	5. 総ページ数 69
3. 書名 成果報告書 シンポジウム 近代都市の相貌 明治山形の写真・絵画・建築	

1. 著者名 幸福輝、尾崎彰宏他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 466pp. ( pp.139-160, pp.373-400. )
3. 書名 17世紀オランダ美術と アジア	

1. 著者名 Chr. Craig、Akihiro Ozaki他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Mimesis, Milan	5. 総ページ数 181pp (pp51-58)
3. 書名 3.11: Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination	

1. 著者名 Christopher Craug, Enrico Fongaro, Akihiro Ozaki(eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Mimesis international, Milan	5. 総ページ数 153
3. 書名 Knowledge and Arts on the Move: Transformation of the Self-aware Image through East-West Encounters	

1. 著者名 元木幸一（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 25
3. 書名 祈念像の美術	

1. 著者名 山形大学人文学部附属映像文化研究所（石澤靖典編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 山形大学人文学部附属映像文化研究所	5. 総ページ数 35
3. 書名 没後100年記念菊地新学シンポジウム 東北初の写真家、菊地新学と山形の写真文化	

1. 著者名 尾崎彰宏他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ありな書房	5. 総ページ数 242
3. 書名 ネーデルラント美術の光輝：ロベール・カンパンからレンブラント、そしてヘリット・ダウ	

1. 著者名 Akihiro Ozaki and others	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Mimesis	5. 総ページ数 100
3. 書名 How to Learn? Nippon/Japan as Object, Nippon/Japan as Method	

1. 著者名 石澤靖典、森岡卓司他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所	5. 総ページ数 284
3. 書名 大正・昭和期における東北の写真文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	元木 幸一 (MOTOKI Kouichi) (10125669)	山形大学・人文社会科学部・名誉教授  (11501)	
研究分担者	石澤 靖典 (ISHIZAWA Yasunori) (20333768)	山形大学・人文社会科学部・教授  (11501)	
研究分担者	小林 俊介 (KOBAYASHI Syunnsuke) (50292404)	山形大学・地域教育文化学部・教授  (11501)	
研究分担者	佐々木 千佳 (SASAKI Chika) (50400198)	秋田大学・教育文化学部・准教授  (11401)	
研究分担者	尾崎 彰宏 (OZAKI Akihiro) (80160844)	東北大学・文学研究科・教授  (11301)	
研究分担者	成田 雄太 (Narita Yuuta) (70774157)	東北大学・情報科学研究科・博士特定研究員  (11301)	削除：平成28年8月31日

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関